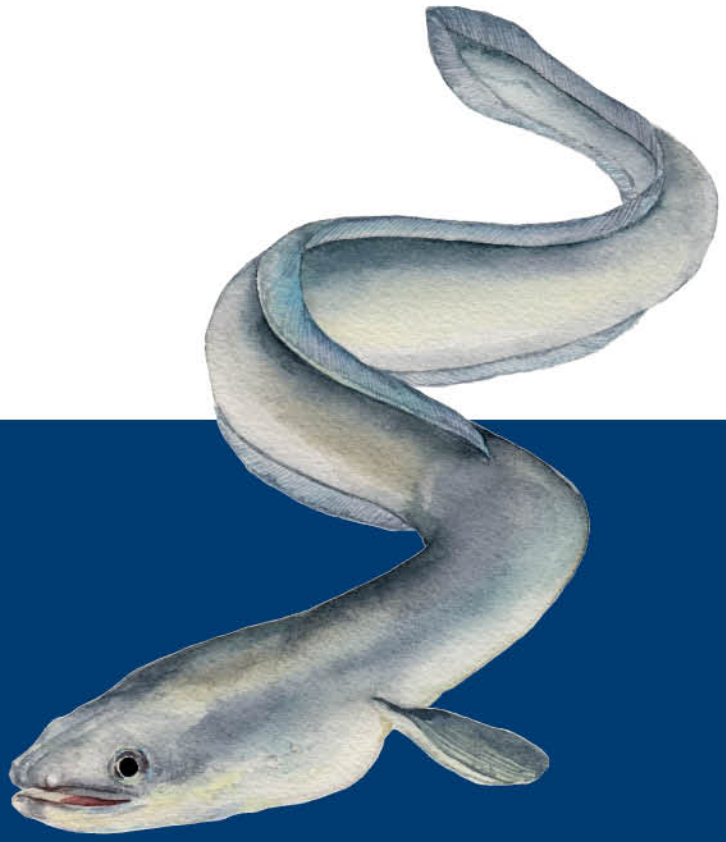
ふえき

時代を超えて変わらないもの

特集

岡山129のアクティビスト図鑑



81

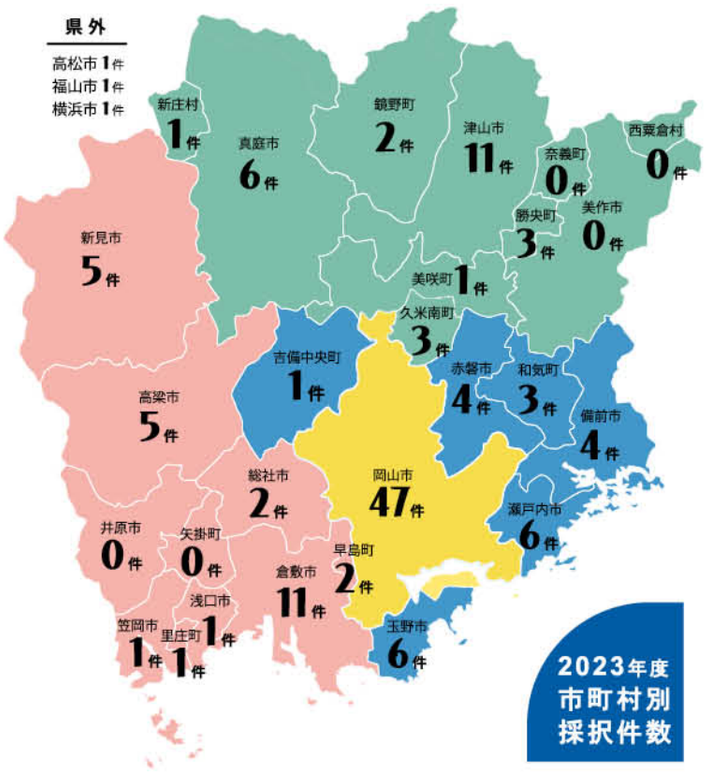
公益財団法人 福武教育文化振興財団 機関誌「不易」

特集

2023年度
教育文化活動助成

岡山アクティビスト129の図鑑

2023年度「教育文化活動助成」の対象者は129件、助成総額は3000万円に決定しました。今年度の応募件数は229件、採択率は56%、平均助成額は23万円です。助成対象者と助成財団は同じ目的を達成するためのパートナーです。みなさまの活動が成長・発展していくためのフォローアップ（助成金以外の支援）にも積極的に取り組んでいきます。



OKAYAMA AREA

岡山エリア activist

1 大井地区連合町内会　里山活性化研究会
2 ゴールデンリバー５３
3 NPO 法人まんなか
4 にじいろハーモニープロジェクト
5 kojo-kojo（興除向上）委員会
6 NPO 法人企画 on 岡山
7 奉還町近過去アーカイブプロジェクト実行委員会
8 NPO 法人チーム響き
9 ばとざプロジェクト
10 年齢や所属を越えて語り合う場「F-cafe」
11 石原 訓志
12 「ふくしのえんがわ」実行委員会
13 いのちのおはなし岡山
14 福谷農家博物館
15 アテナの広場
16 野良のあそび箱 in 夏休み実行委員会
17 NPO 法人サイエンスリンク
18 彦崎地区伝統文化・文化財保存会
19 あい音
20 LOOP⑩
21 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター
22 NPO 法人みんなの劇場・おかやま
23 建部獣皮有効活用研究所
24 専門学校ビーマックス　造山古墳チーム
25 岡山市立岡山後楽館高等学校
　まちなかのふるさと教育実行委員会
26 一般社団法人 SGSG
27 岡山高等学校メガスライム 39 号開発チーム
28 岡山高等学校探究クラス
　コメ作り × エシカル消費プロジェクト
29 放送大学学生団体　科学わくわくクラブ
30 岡山県立岡山御津高等学校　ルネス学
31 特定非営利活動法人 こくさいこどもフォーラム岡山
32 中国短期大学　保育学科　チームキットパス
33 文化遺産継承プロジェクト
34 烏城紬保存会
35 オペラプラザ岡山
36 岡山パリ祭実行委員会
37 月下舞踏会 M
38 Cube
39 アートで地域づくり実践講座修了生チーム牛窓
40 岡山県演奏家協会
41 特定非営利活動法人 映像作家支援機構
42 「ニシガワ図鑑」実行委員会
43 中国二期会
44 岡山県独立書人団
45 一般社団法人歴史新大陸
46 サムシング・スルー
47 夢の降る街実行委員会

① 地域社会（コミュニティ）の活性化のために教育や文化芸術を活用する活動
② 次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動
③ 教育の質の向上や普及に取り組む活動
④ 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

岡山市
1 大井地区連合町内会　里山活性化研究会
世代を超えてアイデア・知識を持ち寄るプログラムと電子工作クラブ
菅野 英憲

岡山市
2 ゴールデンリバー53
爺婆の孫プロジェクト
友谷 清志

岡山市
3 NPO法人まんなか
廃園を活用した多世代交流ができる居場所みんなの広場
岡田 直子

岡山市
4 にじいろハーモニープロジェクト
障がいがある人、ない人「みんな主役にじいろコンサート」
杉山 麻里

岡山市
5 kojo-kojo（興除向上）委員会
郷土の歴史を語り継ぐための興除新田開発200年記念演劇

岡山市
6 NPO法人企画on岡山
高齢者と手話者と子どもたちが一緒になって創る新たな舞台
大塲 真護

岡山市
7 奉還町近過去アーカイブプロジェクト実行委員会
近過去から未来に繋ぐ奉還町歴史マップ作成プロジェクト
右田 貴子

岡山市
8 NPO法人チーム響き
第三回高校生×声優～福祉の朗読劇～の開催
阿部 磨呂

岡山市
9 ばとざプロジェクト
表町3丁目南地区～新旧住民をつなぐ「場」と「座」の創出～
南 順子

岡山市
10 年齢や所属を越えて語り合う場「F-cafe」
長島スタディツアー「長島で語り合い、私を見つける日」開催
北浦 菜緒

岡山市
11 石原 訓志
岡山市内に開設している子ども食堂における居場所づくり支援

岡山市
12 「ふくしのえんがわ」実行委員会
ふくしのえんがわ～医療・福祉・教育職等の地域づくり講座～
圓山 典洋

岡山市
13 いのちのおはなし岡山
こどもたちへ「いきるちから」を伝えよう
宇野 香織

岡山市
14 福谷農家博物館
昔の農機具などを民俗資料として、それらを生かした体験活動
城木 武士

岡山市
15 アテナの広場
こどもの感性と思考力を養い鍛える体験広場
哲学／論語／文化
伊藤 清郁

岡山市
16 野良のあそび箱in夏休み実行委員会
ホールを原っぱにしてあそぶ音楽劇「野良のあそび箱in夏休みVI」
磯田 瞳

OKAYAMA AREA

岡山エリア activist

岡山市

17 NPO法人サイエンスリンク
大学生主催による子ども向け体験型科学イベント
岡田 夏蓮

岡山市

18 彦崎地区伝統文化・文化財保存会
灘崎地域の歴史遺産（彦崎貝塚等）保存活用と後継者育成交流事業
田嶋 正憲

岡山市

19 あい音
子どもの感性を育む「音楽パーティ♪」～本物を体感する空間～
三好 和美

岡山市

20 LOOP⑩
子どもや障がいのある方も含めたエンターテイメント&アート、デリバリーブレイクスクール・プロジェクト始動
藤原 康典

岡山市

21 特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター
乳幼児時期からすべての子どもが文化芸術に出会うプロジェクト
美咲 美佐子

岡山市

22 NPO法人みんなの劇場・おかやま
青少年アート実験室アップサイクルプロジェクト×Cross Clothe
高谷 純

岡山市

23 建部獣皮有効活用研究所
ジビエレザーを通じて学べる「ジビエを学ぶクラフトキット」制作
頼本 ちひろ

岡山市

24 専門学校ビーマックス 造山古墳チーム
熱気球から眺望する造山古墳群
松田開誠 安井真美

岡山市

25 岡山市立岡山後楽館高等学校 まちなかのふるさと教育実行委員会
まちなかのふるさと教育を通して積極的に社会参画する生徒を育成
矢吹 玲子

岡山市

26 一般社団法人SGSG
学校の枠を超えた「高校生起業部」
野村 泰介

岡山市

27 岡山高等学校メガスライム39号開発チーム
豪雨時に避難時刻を通知するシステムの普及を目指すプロジェクト
朝川 真行

岡山市

28 岡山高等学校探究クラス コメ作り×エシカル消費プロジェクト
里海米栽培の効率化研究と商品開発を通じたエシカル消費啓発活動
石川 大城

岡山市

29 放送大学学生団体 科学わくわくクラブ
小学生に理科の楽しさを伝え、科学的に考える力を育てる
瀬崎 勝二

岡山市

30 岡山県立岡山御津高等学校 ルネス学
御津高校が地域を元気にするプログラム
末廣 聡

岡山市

31 特定非営利活動法人 こくさいこども フォーラム岡山
中高生グローバル人材育成の為の学びの場「国際塾」
秋政 孝一

岡山市

32 中国短期大学 保育学科 チームキットバス
画材と環境を軸にした地域貢献と創造的教育活動の創出と普及
鳥越 亜矢

岡山市

33 文化遺産継承プロジェクト
文化財の調査研究や所有者支援により未来へ継承するプロジェクト
横山 定

岡山市

34 鳥城紬保存会
鳥城紬の歴史と技術の継承のための冊子作り
須本 雅子

岡山市

35 オペラプラザ岡山
ユニヴァーサルデザインオペラ「森は生きている」オペラプラザ岡山創立15周年記念公演
広瀬 千加子

岡山市

36 岡山パリ祭実行委員会
地域との連携で持続可能な岡山パリ祭2023を始動
あみ

岡山市

37 月下舞踏会 M
芸術創造劇場開館の公募企画『未来の花』の上演
古関すまこ

岡山市

38 Cube
演出家、劇作家を育てるためのワークショップ、演劇公演の開催
景山 圭祐

岡山市

39 アートで地域づくり実践講座 修了生チーム牛窓
アート作品と対話鑑賞を通して結ぶ「牛窓」集いの場作り
武本 賢治

岡山市

40 岡山県演奏家協会
0歳から大人までが楽しめる音楽コンサートの開催
佐々木 英代

岡山市

41 特定非営利活動法人 映像作家支援機構
岡山ゆかりの映画作品を鑑賞するシネマジャンク～珠玉の映画とトークイベントの夕べ
大西 貴也

岡山市

42 「ニシガワ図鑑」実行委員会
舞台のあるべき形の再定義「ニシガワ図鑑Ⅷ」
額田 信一

岡山市

43 中国二期会
創立50周年記念オペラ「フィガロの結婚」全4幕
松本 敏雄

岡山市

44 岡山県独立書人団
新しい書を創造する第50回記念岡山県独立書展
松嶋 碧山

岡山市

45 一般社団法人歴史新大陸
郷土愛の育成と歴史を観光につなげる「天神町の甚九郎稲荷伝説」の上演
後藤 勝徳

岡山市

46 サムシング・スルー
演劇人材リスタートのためのプロジェクト企画公演
笠原 由莉

岡山市

47 夢の降る街実行委員会
岡山で上質なミュージカルを。「星の王子さま」公演
角田 みどり

① 地域社会（コミュニティ）の活性化のために教育や文化芸術を活用する活動

② 次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動

③ 教育の質の向上や普及に取り組む活動

④ 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

備中エリア BICCHU AREA activist

倉敷市
48 一般社団法人はれとこ
49 鹿子の木会　長舗邸
50 エディブル・エデュケーション岡山研究会
51 一般社団法人コノヒトカン
52 Fukiya design.
53 Kojima Kids Art :)
54 リカバリーカレッジ　OKAYAMA
55 清心中学校・清心女子高等学校
倉敷青年会議所 理界村実行委員会
56 源平藤戸合戦保存振興会 劇団「絆」
57 児島映画祭実行委員会
58 総社土曜大学

高梁市
59 高梁100challenge
60 高梁高等学校　社会問題研究部
61 福地学園学校運営協議会
62「高梁未来学」推進委員会
63 岡山県立高梁高等学校 方谷学実施委員会

新見市
64 新見公立大学 むすびの会
65 第6回森のゆうえんちinにいみ実行委員会
66 神代和紙保存会
67 杜の学校研究会

笠岡市
69 白石踊会

総社市
70 昭和五つ星学園義務教育学校と地域が交わる「夢広場」をそだてる会
71 玉島ARTプロジェクト

浅口市
72 よりしま魅力化推進協議会

早島町
73 株式会社ぬか／ぬか つくるとこ
74 はやしまアートフェスタ実行委員会

里庄町
75 飛島ガーディアングループ

倉敷市 56 源平藤戸合戦保存振興会 劇団「絆」
演劇「源平藤戸合戦」を通した地域の歴史教育への取り組み
藤原 肇

倉敷市 52 Fukiya design.
地域ならではの学習素材及び人材を活かした教育プログラム
那須 啓文

倉敷市 57 児島映画祭実行委員会
全国からご当地映画を募集する児島映画祭の開催
桑田 浩一

倉敷市 53 Kojima Kids Art :)
自由なモノづくりを通じてこども達の創造性を育む活動
稲葉 剛

倉敷市 58 総社土曜大学
「映画の授業」を通して新たな価値の創造を考える
小林 耕二

倉敷市 54 リカバリーカレッジ OKAYAMA
当事者、支援者、地域住民が教育の視点からリカバリーを学ぶ
くっしー　ことねさん　ぼっさん　おりつさん

倉敷市 50 エディブル・エデュケーション岡山研究会
エディブルな探求学習 ☆EDIBLE LIFE Lab
田辺 綾子

倉敷市 48 一般社団法人はれとこ
地域情報発信を担う市民ライター育成事業・高梁川流域ライター塾
戸井 健吾

高梁市 59 高梁100challenge
高梁市の学生主体の地域活性プロジェクト創出＆伴走プログラム
横山 弘毅

倉敷市 55 清心中学校・清心女子高等学校・倉敷青年会議所 理界村実行委員会
生きる楽習カレッジ『理界村』2023
山田 直史

倉敷市 51 一般社団法人コノヒトカン
コノヒトカン1000缶プロジェクト ～支援アイデアコンテスト～
三好 千尋

倉敷市 49 鹿子の木会 長舗邸
神島お遍路マラニック 手打ちお蕎麦を食べる会、コンサート

① 地域社会(コミュニティ)の活性化のために教育や文化芸術を活用する活動
② 次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動
③ 教育の質の向上や普及に取り組む活動
④ 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

浅口市 72 よりしま魅力化推進協議会
地域と学校が連携した「魅力ある未来の学園プロジェクト」の推進
笠原 宏之

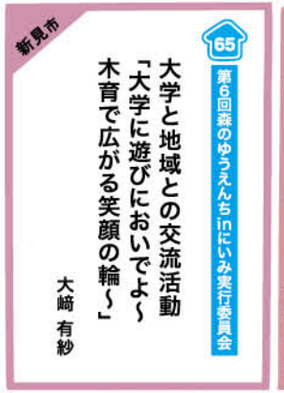
新見市 68 公益財団法人新見美術振興財団
新見公立大学×新見市立図書館×新見美術館が連携した絵本展関連イベント
藤野 浩吉

新見市 64 新見公立大学 むすびの会
むすびの会 ～つないでむすぶ地域の輪～ 多世代の居場所づくり
平松 萌々子

高梁市 60 高梁高等学校　社会問題研究部
廃棄農産物を使って特産品をつくり、地域を活性化
森元 優

早島町 73 株式会社ぬか／ぬか つくるとこ
2023年度そのうち国際芸術祭柴川敏之展2000年後のなんでそんなん
中野 厚志

笠岡市 69 白石踊会
高校生アイデアを活かす白石踊継承活動
河田 裕善



新見市 65 第6回森のゆうえんちinにいみ実行委員会
大学と地域との交流活動「大学に遊びにおいでよ～木育で広がる笑顔の輪～」
大﨑 有紗

高梁市 61 福地学園学校運営協議会
次の10年に向けた学校園魅力向上事業
近藤 奎吾

早島町 74 はやしまアートフェスタ実行委員会
美術館のない小さな町「はやしま」からアートを発信しよう！
直原 清美

総社市 70 昭和五つ星学園義務教育学校と地域が交わる「夢広場」をそだてる会
昭和五つ星学園義務教育学校と地域が交わる「夢広場」をそだてる
岡野 牧子

新見市 66 神代和紙保存会
約千年前から漉かれている「神代和紙」の保存伝承プロジェクト
仲田 紗らさ

高梁市 62 「高梁未来学」推進委員会
「高梁未来学」を核としたキャリア教育の充実
小野 雅子

里庄町 75 飛島ガーディアングループ
中学生中心の地域計画の実践「健康福祉」の為の「体操教室」
日置 幸

総社市 71 玉島ARTプロジェクト
ふるさとは踊る ～玉島の今昔を聞き書き・写真・ダンス動画で発信～
黒川 しのぶ

新見市 67 杜の学校研究会
地域を愛し貢献する児童を育成するためのふるさとキャリア教育
定岡 修

高梁市 63 岡山県立高梁高等学校 方谷学実施委員会
高梁を元気にするための高校生による地域おこし活動
藤井 佑月

津山市
76 美作大学調理師会
地域食材を使った大学生によるみまちょーレストランの開催
牧原 直太朗

津山市
78 津山高専・つやまたたらの会
たたら製鉄実験を通じた産業・環境問題への興味と深化
関 一郎

津山市
80 美作大学 沖縄県人会
沖縄県出身の学生による創作劇「時をこえ」の上演
鵜崎 実

津山市
83 美作サイエンスフェア実行委員会
子どもたちを対象にした体験講座「美作サイエンスフェア」
國定 義憲

津山市
77 広野子ども歌舞伎
「子ども歌舞伎」による地域文化の継承と子どもの居場所作り
柿内 穂

津山市
79 認定NPO法人オリーブの家
困難な状況の子どもの可能性を広げるための体験学習等実施
山本 康世

津山市
81 レブタイル株式会社
子どもたちのプログラミング体験機会「Okayama Tech Award for Kids 2023」の開催
藤原 勇輔

津山市
84 津商モールアップデートする会
過疎地域での人材育成に寄与する「津商モール」モデル
砂田 祐一

津山市
82 つやま演劇教育研究会
SDGs教育劇上演および環境番組製作を介した教育活動
桑守 正範

津山市
85 岡山県美作高等学校 福祉医療コース
地域活性化交流活動 地域福祉課題解消プログラム
山下 武宏

津山市
86 作州絣保存会
新しくなる作州工芸館に向けて更なる絣織りのスキルアップと広報の充実
日名川 茂美

津山市
76 美作大学調理師会
77 広野子ども歌舞伎
78 津山高専・つやまたたらの会
79 認定NPO法人オリーブの家
80 美作大学 沖縄県人会
81 レブタイル株式会社
82 つやま演劇教育研究会
83 美作サイエンスフェア実行委員会
84 津商モールアップデートする会
85 岡山県美作高等学校 福祉医療コース
86 作州絣保存会

真庭市
87 霜月祭実行委員会
88 一般社団法人 はにわの森
89 教育有志団体manabo-de
90 蒜山ミライ会議
91 特定非営利活動法人 勝山・町並み委員会
92 真庭市立中央図書館サポーターズ

新庄村
93 新庄村に非認知能力を広め隊

鏡野町
94 鏡野鶴喜こども銭太鼓
95 OKUTSU芸術祭実行委員会

勝央町
96 アグリ魅力化志援会
97 地域防災食開発研究会
98 勝央美術文学館 プレオープン20周年記念プロジェクト

久米南町
99 コンシーデレ山手
100 このゆびとまれ
101 高野尻村 小学部

美咲町
102 岸田吟香を語り継ぐ会

①地域社会(コミュニティ)の活性化のために教育や文化芸術を活用する活動
②次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動
③教育の質の向上や普及に取り組む活動
④文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

真庭市
87 霜月祭実行委員会
地域の伝統文化を後世へ。持続可能な活動のための仕組みづくり
入江 正親

真庭市
91 特定非営利活動法人 勝山・町並み委員会
チェロ奏者・谷口賢記のアウトリーチとコンサート
行藤 公典

鏡野町
95 OKUTSU芸術祭実行委員会
地域の特色を生かした第5回OKUTSU芸術祭
辻本 高廣

久米南町
99 コンシーデレ山手
「山手ええとこカルタ」を作ろう
山本 祐一

真庭市
88 一般社団法人 はにわの森
「森林体験のアップデートプログラム」の開発
大岩 功

真庭市
92 真庭市立中央図書館サポーターズ
真庭図書館映画祭 地域で新たに学び、出会い、交流する
名和 輝明
福島 久美子

勝央町
96 アグリ魅力化志援会
高校と地域が連携して農業の魅力を伝えるアグリ魅力化プロジェクト
本行 才泰

久米南町
100 このゆびとまれ
町内の子ども達のための遊び場づくり
明楽 香織

真庭市
89 教育有志団体manabo-de
教育に関心のある人がゆるく集うサードプレイスの運営
森年 雅子

新庄村
93 新庄村に非認知能力を広め隊
新庄村に非認知能力を広めるためのセミナー・研修会
行安 克昌

勝央町
97 地域防災食開発研究会
地域食材を活用した防災食の開発
前原 教志

久米南町
101 高野尻村 小学部
限界集落を利用した小学生の平日の居場所作りに関わる活動
稲森 理恵

真庭市
90 蒜山ミライ会議
高校と地域社会の連携「共に語ろう。共に変わろう。私たちのミライのために。」
永田 浩史

鏡野町
94 鏡野鶴喜こども銭太鼓
鏡野鶴喜こども銭太鼓による地域の活性化および伝統文化の継承
牧 恵美子
池田 民子

勝央町
98 勝央美術文学館 プレオープン20周年記念プロジェクト
地域の子どもたちが楽しめるCOCHAE 20周年記念展
神田 寿則

美咲町
102 岸田吟香を語り継ぐ会
郷土の偉人「岸田吟香」の知名度を上げ全国に周知する活動
加原 奎吾

備前エリア activist

BIZEN AREA

玉野市
103 玉野みなと芸術フェスタ実行委員会
104 玉野しおさい狂言会
105 玉野【里山★玉仙岩】の会
106 岡山県立玉野光南高等学校 ぷろぐ☆ラボこうなん
107 ロケットを用いたワクワク教育素材開発チーム
108 はじめての「第九」たまの実行委員会

備前市
109 伊部地区まちづくり会議
110 NPO法人備前ブレーパークの会
111 特定非営利活動法人「saloon
112 岡山県こども備前焼作品展実行委員会

瀬戸内市
113 Polish Art and Science Mission in Japan
114 備前福岡の市圏地産地消推進協議会
115 ひとづくり・まちづくりフォーラム実行委員会
116 邑久高等学校セトリー運営指導委員会
117 糸あやつり人形劇団「つきみ草」
118 せとうちこども合唱団ティンカーベル

赤磐市
119 あかいわ美土里の和
120 神田 久見子
121 永瀬清子書道アート展実行委員会
122 NPO法人永瀬清子生家保存会

和気町
123 旧和気小学校みんなで放課後合宿実行委員会
124 「ひと・もの・こと」とつながる 佐伯小夢プロジェクト
125 東備対話プロジェクト

吉備中央町
126 みんなの第九プロジェクト

福山市
127 瀬戸内サニー株式会社
128 明神鼻の小屋実行委員会

横浜市
129 にじーず

玉野市 107 ロケットを用いたワクワク教育素材開発チーム
ワクワク感を育む、ロケットを題材とした教育素材と活用法の開発
藤原 修

備前市 111 特定非営利活動法人「saloon
ユースセンター放課後スペースINBaseを拠点にした活動
守谷 克文

玉野市 108 はじめての「第九」たまの実行委員会
住民参加型・地域密着型・玉野市活性化の「第九」の開催
長尾 節子

備前市 112 岡山県こども備前焼作品展実行委員会
備前焼を通して地域文化やものづくりを体感する岡山県こども備前焼作品展
伊勢﨑 競

玉野市 103 玉野みなと芸術フェスタ実行委員会
TAMAFES20年の活動記録本『TAMAFES・20年の歩み』の発刊
斉藤 章夫

玉野市 105 玉野【里山★玉仙岩】の会
地域の人々が育て楽しむ里山を目指して
岡﨑 良雄

備前市 109 伊部地区まちづくり会議
みんなでつくる「伊部ふるさと写真集」プロジェクト
清家 彩菜

瀬戸内市 113 Polish Art and Science Mission in Japan
ラドスラフ・プレディギェル
2022年に邑久高校でスタートしたズグラッフィート壁画の継続と完成

玉野市 104 玉野しおさい狂言会
しおさと玉野の歴史・文化を笑いながら学び 笑いながら伝える「しおさとまつり」の開催と「学校狂言」「福祉狂言」の始動
斉藤 章夫

玉野市 106 岡山県立玉野光南高等学校 ぷろぐ☆ラボこうなん
高校生ICTレストラン「ぷろぐ☆ラボこうなん」
一守 克己

備前市 110 NPO法人備前ブレーパークの会
みんなでつくろう！繋がろう！「みんなのおうち」
北口 ひろみ

瀬戸内市 114 備前福岡の市圏地産地消推進協議会
地産地消学校給食と連動した瀬戸内市の食育体験学習の推進
大倉 秀千代

---

① 地域社会（コミュニティ）の活性化のために教育や文化芸術を活用する活動

和気町 125 東備対話プロジェクト
小中高生と地域との対話を通し、地域を担う人材を育成
赤松 一樹

和気町 123 旧和気小学校みんなで放課後合宿実行委員会
旧和気小みんなで放課後合宿
畠中 要輔

赤磐市 119 あかいわ美土里の和
地球環境問題とシナアブラギリ活用の実証研究その第一歩
白石 齊

瀬戸内市 115 ひとづくり・まちづくりフォーラム実行委員会
「旅するひとづくり・まちづくりフォーラム」を通したネットワークづくり
田甫 健一

吉備中央町 126 みんなの第九プロジェクト
第九を日本語と好きな楽器で楽しむ
～地域でつくる『みんなの第九音楽会』～
森安 高廣

和気町 124 「ひと・もの・こと」とつながる 佐伯小夢プロジェクト
児童と地域を結ぶ新しいカタチの体験活動
山本 和宏

赤磐市 120 神田 久見子
子どもたちが考えるワークショップの実現

瀬戸内市 116 邑久高等学校セトリー運営指導委員会
瀬戸内市と連携して地域のリーダーを育成する探究活動
矢野 祥子

② 次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動

福山市 128 明神鼻の小屋実行委員会
「明神鼻の寺子屋～まちが豊かな学びの場～」の開催
梶谷 浩子

県外エリア activist

高松市 127 瀬戸内サニー株式会社
福山市 128 明神鼻の小屋実行委員会
横浜市 129 にじーず

赤磐市 121 永瀬清子書道アート展実行委員会
永瀬清子書道アート全国公募展
三浦 和恵

瀬戸内市 117 糸あやつり人形劇団「つきみ草」
糸あやつり人形による「人形劇備中神楽」を瀬戸内市外で公演
妹尾 薫

③ 教育の質の向上や普及に取り組む活動

横浜市 129 にじーず
LGBTの児童生徒の孤立予防および教員・支援者のネットワーキング
遠藤まめた

高松市 127 瀬戸内サニー株式会社
復興地の風化防止・防災意識啓蒙のための情報発信プロジェクト
大崎 龍史

赤磐市 122 NPO法人永瀬清子生家保存会
「いつかだれかにわたしの思いを」～詩を堪能する場づくり活動
横田 都志子

瀬戸内市 118 せとうちこども合唱団ティンカーベル
ありがとうプロジェクト PV「歌でつなぐ瀬戸内市の人々」
上野 洋子

④ 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

財団設立35周年記念講演レポート

「アートは人を耕す」を実感

脳科学者 中野信子氏 講演会

取材・文　黒部 麻子

3月4日、岡山コンベンションセンターで、福武教育文化振興財団設立35周年記念講演「アートは人を耕す」が開催されました。

私はもともと、アートに対して苦手意識が強く、「自分にはなんだかよく分からない世界……」と、最初から心理的距離を置いてしまうタイプの人間でした。しかし、この日の講演で、すっかりアート鑑賞の魅力の虜になってしまったのです！

中野信子さんのお話により、アート鑑賞、とりわけ対話型鑑賞の素晴らしさが、理屈として深く理解できたうえ、対話型鑑賞を授業で実践された小学校の報告および子どもたちによる実演を見て、「ああ、これはいいわ！」と、実感としても、すとんと腑に落ちたのでした。しかも、講演の前後には、ロビーで対話型鑑賞を体験するコーナーもあったので、その楽しさを知ることもできました。かつては縁遠かったアートという存在が、一瞬にしてぐっと身近に、いや、むしろ自分の関心のど真ん中に来てしまったのです。あの日私が感じた魅力の一端でも、このレポートでお伝えできればと思います。

「ハロー！ミュージアム」で小学生に美術館の楽しさを

会場に着くと、オープンを待つたくさんの人であふれていました。「引両紋」の青山雅史さんが淹れる、ほうじ茶のやわらかな香りがロビーに漂います。そんな中、ロビーで「アートの対話型鑑賞」の体験会が始まりました。お茶を片手に、その場に居合わせた参加者のみなさんと、アート作品を見ながら、感想や気になったことを話しつつ、開演を待ちました。

開演冒頭、福武教育文化振興財団の松浦俊明理事長から、35周年記念事業である「ハロー！ミュージアム」の説明がありました。

「岡山県内の小学生全員が卒業するまでに一度は美術館を訪れ、本物のアートに出会い、わくわくする体験をしてもらいたい」との思いでスタートしたという、この事業。小学校と美術館の連携により、①事前のレクチャーから、②美術館訪問、③事後学習、④アウトプット（子どもたちが表現する）までの一連の流れを、美術館職員と財団職員によるフォローのもと行っていくそうです。財団からは、講師費用や美術館への交通費、入館料などが助成されます。

対象学年は小学3年生と4年生。2023年度は美作エリアから始まり、最終的には県内全域に拡げたいとのこと。

「この活動を30年続ければ、岡山県内の10代から40代のすべての人たちにとって、美術館が楽しく身近な場所になっているはず。感性豊かな岡山県民が増え、アートを身近に感じていただけるよう、長く続けていきたい」と松浦理事長は語ります。

その後登壇したのは、ハロー！ミュージアムに参加した、美咲町立加美小学校の石川晶先生です。加美小学校では、大原美術館の寺元静香さんをファシリテーターとして招き、上記①～④までを図工の授業の中で実践。対話型鑑賞を体験し、最後に、子どもたちは自分で考えた「まぼろしの花」を描きました。

ところで、先ほどから何度か名前の出ている「対話型鑑賞」、みなさんご存じでしょうか？

私は2月にも、「andF教室」に参加して、対話型鑑賞を体験していました。対話型鑑賞とは何か、詳しくは18ページをご参照ください。

加美小学校の子どもたちは、大原美術館でそれぞれに自分の「好き」を発見し、対話型鑑賞を通じて、自然と表現方法を学んでいったそうです。「まぼろしの花」の絵はこの日、ロビーに展示されていましたが、伸びやかに描かれた、個性あふれる花たちが並んでいました。

ハロー！ミュージアムについて説明する松浦俊明理事長

ロビーで対話型鑑賞を体験

加美小学校の子どもたちが描いた「まぼろしの花」

人類が生き延びるための カギを握るのはアート!?

さて次は、脳科学者の中野信子さんの講演です。人間の脳にとってアートはどのような役割を果たしているのでしょうか。

アートというと、富裕層の道楽のように思われることもありますが、中野さんによると、私たち人間の脳は、美の認知のために前頭前野のほぼすべて（脳全体の4分の1ほど）の領域を使っているそうです。つまり、それほど人間にとってアートは重要なのだということです。

200〜300万年ほど前、直立二足歩行をする、我々の祖先となる原人・旧人が誕生します。その中で生き延びたのはホモ・サピエンスだけです。ホモ・ハビリス、アウストラロピテクス、ネアンデルタール人などは滅びてしまったのです。我々サピエンスと他の種との最大の違いは、彼らには前頭部がおさまる額のふくらみ＝前頭洞がないこと。美の認知が精密にできず、象徴的価値を理解できないのだそうです。中野さんはこう話します。

「配慮範囲と言いますが、私たちの脳が仲間として認知できるのは約150人。他の生物に比べたら圧倒的に多い。他の種の人類たちは、おそらく戦闘や裏切り行為によって潰し合ってきたのでしょう。サピエンスは、150もの配慮範囲を持つことで、長期的な損得を考え、戦闘行為を避け、生き延びてきた。しかし、150より外の人に対しては、なかなか想像力を持てません。この配慮範囲を広げるため、近代までは、宗教や倫理が力をもっていましたが、今ではそうした『大きな物語』は力を持ち得ません。その結果、世界各地で戦争や紛争が起こっています。科学によって平和をめざそうともしてきましたが、むしろ武器の強化につながり、役に立ちませんでした。

最後に私たちに残されているのは、おそらくアートしかありません。どこかの国の誰かがつくった作品に、『こんな見方があるんだな』とか『おもしろいな』と感じる体験がどれだけできるか。私たちがこの先も生き延びることができるかどうかは、そこにかかっているのです」

一体どこに着地するんだろう？と思って聞いていましたが、なんともスケールの大きな話でした。ぜひ、YouTubeで講演全体をお聞きください。くすっと笑えるエピソードも交え分かりやすく語られていて、知的な刺激がたくさんありますよ。

https://youtu.be/fFR54RUnb_g

講演の動画はこちらからご覧ください。

百聞は一見に如かず！ 小学生による対話型鑑賞実演

最後に、小学生たちによる対話型鑑賞のデモンストレーションがありました。

木を伐る人が描かれた絵画を見て、子どもたちが自分の目に見えたもの・感じたことを言っていきます。「雲が描かれているから外だと思う！」と子どもが言うと、ファシリテーターの寺元さんが「どこに雲がある？　なんで雲だと思った？」と問いかけます。

こうしたやりとりを重ねていくうちに、「斧を持つ指がぎゅっとなっているから、きっと焦ってるんだ」「服が少し汚れているからベテランの人かもしれない！」など、子どもたちの目が自然と細部にまで向き、深い考察がなされていく様子が分かりました。最初は恥ずかしそうにしていた子も、お友達に触発されて、最後はどの子もいきいきと発言していたのが印象的でした。中野さんが「対話型鑑賞で成績が伸びる」と言われていましたが、確かにそうだろうなと実感しました。

終演後、対話型鑑賞のファシリテーターのひとりをつかまえて「対象が小学3・4年生なのはどうしてですか？」と尋ねたところ、ちょうど語彙が増え、言語表現が花開く時だから、とのこと。これにも納得です。

すっかり魅了された私は、その後、わが子を連れて（ちょうど4年生なのです）直島や美術館へ通い、くらしの中でも対話型鑑賞を意識するようになりました。ぜひハロー！ミュージアムを広めていただき、たくさんの子どもたちが対話型鑑賞を体験できる機会をつくってほしいですし、大人も楽しめること間違いなし。しかも人類の平和につながるのですから、こんなに素晴らしいことってないですね！

絵のポーズを真似てみる

ファシリテーターの寺元静香さんと子どもたち

財団からお知らせ

FUKUTAKE EDUCATION AND CULTURE FOUNDATION

ハロー！ミュージアムのこれまでとこれから

「美術館へ行こう！プロジェクト」としてスタートした「ハロー！ミュージアム」は、2022年度は岡山大学教育学部附属小学校6年生、美咲町立加美小学校3年生と大原美術館に協力をいただきプロジェクトのトライアルを行いました。

その中で、見えてきた課題や成果を元に、2023年度はまず、美作エリアの小学校を対象に、利用校を募集します。対象学年は、3年生・4年生です。

今後は備中・備前エリアへと広げ、最終的には岡山県内の小学校すべてを対象にしていく予定です。

「ハロー！ミュージアム」に共感してくれる小学校を丁寧にゆっくりと増やしていきます。

また、地域の小学生が地域の美術館や博物館を訪れることができるようなプログラムも検討していきます。

子どもたちの楽しいが大人たちに伝わって、美術館や博物館に子どもがいる景色が当たり前になって、すべての人にとって「日常の場」になることを目指します。

僕が、活動をはじめた理由

チャレンジできる土壌づくり

文・横山 弘毅　高梁 100challenge 代表

首都圏から高梁市に移住してきたときに、多くの人から「高梁には何もない」という声を聞きました。「何でこんな何もない田舎に来たんですか」と聞いてくる高校生もいました。

「ないことを嘆く」よりも、「なければ、創り出す」人を増やしたい。そんな仲間であふれる地域にしたい。そう思ったのが、活動を始めたきっかけです。

もう一つ直接的なきっかけは、高梁へ移住直後に、高梁城南高校の生徒たちと取り組んだクラウドファンディングのプロジェクトでした。最終的に高校生だけで150万円近くの支援を集めて「卒業式サプライズ花火」を上げることに成功しましたが、紆余曲折ありました。

高校生がクラウドファンディングをすること自体への反対。コロナ禍での花火実施への是非。制約との板挟み。生徒を応援したい先生の葛藤。学校の看板があるとやりづらいこともあることに気づき、「学校の外側」から「学校や生徒のチャレンジングなアクション」を支援する仕組みの必要性を感じました。学校の探究の授業ももちろんあります。ですが、公立校は教員の異動でガラッと変わることもあります。

地域として、ブレずに、中高生・大学生が何かにチャレンジする土壌をつくる。それが、高梁の未来にとっても、今日を高梁で暮らす学生たちにとっても、絶対に必要だと感じました。活動開始から2年経ち、やりたいことをやり始める中高生や大学生が少しずつ増え始めました。それに触発された大人たちも、動き始めています。挑戦の連鎖をこれからさらに加速していきたいと思っています。

高梁 100 challenge

人口減・高齢化の進む高梁市で、学生主体の地域活性プロジェクトを創出し、地域の将来を担う世代の育成を目的に設立。団体名には「まずは高梁で学生主体のプロジェクトを100生み出す」という想いを込めている。学生に向けて、ワークショップ・伴走支援・備中高梁会議を軸に活動をしていく。

マイクラで旧吹屋小を作ろうイベント

図書館とコラボ、大学生企画の夏休みイベント

私が、活動をはじめた理由

ゆるく大人たちが教育について考える場

文・森年 雅子　教育有志団体 manabo-de 代表

Well-being。子どもも大人も、誰もがよりよく生きられることが私の理想とする世界です。「私たちの小さなアクションが誰かに届くのであれば…」と考え、教育に関心のある人たちがゆるく集って対話を深める場をオンライン上で開設しました。

manabo-deは、20代から30代の現職の高校教師たちが2020年に立ち上げた団体です。設立当時は新型コロナウイルスの影響もあり、学校改革や教育改革が求められていた最中でした。「今子どもたちに届けている教育が果たしてBESTなのだろうか?」。その一言で、同志が集まり、子どもたちによりよい教育を届けるための企てが始まりました。私たちにできることを模索し、失敗をしながらも一生懸命に最適解を導き出し、たどりついた答えが〝ゆるく大人たちが教育について考えることができる場の創出〟だったのです。

お互いが教育観をぶつけ合い、よりよいものを創っていく。まさに共創。現在では、全国から職業・性別・年齢問わず100名近くがメンバー登録をしており、様々な生き方や考え方に触れられる機会となっています。昨年度からは年に2回、岡山県南部と北部でそれぞれ1回ずつ若手教師の育成や生涯学習に繋がるイベントも開催しています。

manabo-deでの学びは参加者から子どもたちに還元され、結果的にゆるやかな大人同士の繋がりや地域づくりにも繋がっていると実感しています。Well-beingを実現するためになくてはならない、そんな団体を目指して今後も活動を展開していきたいと考えています。

教育有志団体 manabo-de

教育に関心がある人たちの「変化する日常についていけない」「今更聞けない」「相談したいけど職場じゃ相談しにくい」といった悩みにコミットしたサードプレイスを作りたいという想いで設立。月に1回のオンラインでも勉強会と年2回の学びの体験会を行う。

「Teache's NEXT」
若手教師や教師の卵たちが自己理解と他者理解を深めるワークショップを夏に開催

『manabo-deと遊ぼうで！』
地域密着で、キッズからシニアまでが体験できる講座を提供。秋に真庭市で開催

対話型鑑賞を体感してみませんか？

講師
間部（まなべ） 俊一（しゅんいち） 氏

株式会社ベネッセホールディングス
本社・直島統轄部
岡山県矢掛町出身。教育への関心から、福武書店（現ベネッセコーポレーション）に入社。中学・高校向け学校向けの事業に従事。教材製作等から各地の印刷・製本工場とも協働。育児やPTA活動等から地域での学びに興味を持ち、現在は、「ベネッセアートサイト直島」の学校・企業・各種団体に寄り添い、教育プログラムの提案や研修実施等のファシリテーションを展開。対話型鑑賞を活用した学校や地域との学びの場づくり等にも参画。

対話型鑑賞は、1980年代後半にMoMA（ニューヨーク近代美術館）で開発されたVisual Thinking Strategies/VTSを源流として、日本ではその呼称のもと、鑑賞教育プログラムとして実践されています。グループで互いの感想や意見を語り合いながらアート作品を鑑賞することで、観察力や批判的思考力、コミュニケーション力などが培われるといわれており、教育やビジネスの観点からも、今、注目が集まっています。

ベネッセ本社の敷地内に展示されているアート作品を題材に、この「対話型鑑賞」を実際にやってみようという本講座。講師は「ベネッセアートサイト直島」で教育プログラムや研修等のファシリテーションをされている間部俊一さんです。

「対話型鑑賞では、何を話しても構いません。焦らず、ゆっくりで大丈夫です。作品そのものについてだけでなく、周囲との関係から感じたことでもOK。途中で考えが変わったり、前に話したことと矛盾が生じたりしても構いません」と間部さん。「小難しく考えなくて大丈夫そうだ」と、ほっとしました（笑）。

レクチャーの後、展示のある場所へ移動。数人ごとのグループに分かれ、作者もタイトルも何も知らないままに、作品を見ながら感じたことを話していきます。

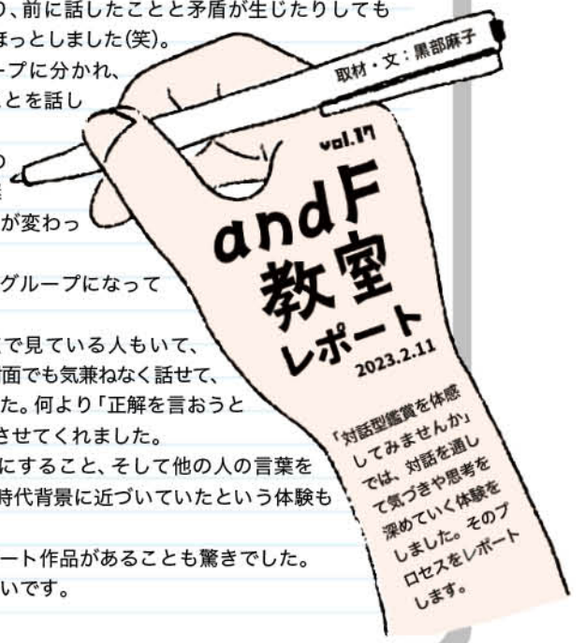
「1枚の絵が分割されているようだ」「何か有名な絵を転写したものでは？」「なんでフィルムを継ぎはぎしてるんだろう？ あえて継ぎ目を見せているのかな？」「天候や時間帯によって光の入り方が変わって見え方も変わる」

屋外にもたくさんの作品があり、その都度、近くの人どうしでグループになって対話しながら鑑賞していきました。

自分と同じところに着目している人もいれば、全く違う視点で見ている人もいて、それがまた刺激になって、新たな発見や疑問につながっていく。初対面でも気兼ねなく話せて、一緒に作品の見方を深めていくことができる、心地よい時間でした。何より「正解を言おうとしなくていい」ということが、アートをぐっと身近なものに感じさせてくれました。

自分の目に留まったことや感じたことをまずはそのまま言葉にすること、そして他の人の言葉を聞くこと、それを繰り返すことで、いつの間にか制作者の意図や時代背景に近づいていたという体験もしました。

ベネッセ本社にお邪魔するのは初めてでしたが、たくさんのアート作品があることも驚きでした。一回ではすべてを鑑賞できなかったので、ぜひまた開催してほしいです。



シリーズ Face

哲学カフェって一体なんでしょうか。

取材・文　森分 志学

松川さんの「哲学」がはじまったのは小学3年生のとき、「この色、本当は何色だろうか」という、ホントのホントにホントのことって何か知りたいという気持ちからでした。大学時代には哲学対話を実践・サポートする団体「カフェフィロ」を設立し、その後もひたすら哲学の道を歩み続ける松川さんにお話をお伺いしました。

てつがくやさん
松川 えり Matsukawa Eri
1979年、大阪府枚方市生まれ。学生時代から哲学カフェの活動をはじめ、2005年、大阪大学臨床哲学研究室のメンバーらと哲学カフェを実践・サポートする団体カフェフィロを設立。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任研究員（2010年–2016年）を経て、フリーランスの「てつがくやさん」（哲学プラクティショナー）に。喫茶店、公民館、学校、病院、福祉施設などで哲学対話の企画・進行を行う。

てつがくやさん　**松川えり**さん

松川さんは、大学院で哲学を学んだ後、大阪大学のコミュニケーションデザイン・センターの研究員に。大阪で働きながら、パートナーの地元という経緯で縁のできた岡山で、2012年に哲学カフェを開きはじめます。

2010年、岡山に哲学カフェという概念は無いなか、参加した人たちの口コミで「うちでも哲学カフェを開きたい」と、大学や公民館、就労移行支援の事業所など、数珠つなぎのように需要は広がっていきました。ジャンルを超えたネットワークがある岡山に松川さんは驚いたそうです。

独立を決意した松川さんは、「てつがくや」を名乗りはじめ、哲学を仕事にするうえで、パン屋を想像してみました。岡山に1軒しかないパン屋は、専門店ではなく、色んなパンを置いているべきであり、それは哲学も同じだと。松川さんの専門はジェンダー・セクシュアリティですが、専門領域に絞らず、ご縁を大切にしながら幅広い分野の依頼に応えていくことで、まずは市場・活動の場を広げていくことにしました。

哲学の定義は哲学者によって千差万別だそうで、松川さんは初めて哲学カフェに参加する人には「正解が決まっていない問題について、じっくり多角的に探究すること」だと伝えています。多角的に探究するとは、同意できない意見や考えにも出会うということです。同意せずとも、その人から見えている社会を探究し、自分との違いや共通点を探るコミュニケーションでもあります。また、「正解が決まっていない」とは「答えがない」ということではないと松川さんは考えています。「人それぞれでよい」にとどまらず、自分が納得いくまで自分なりの答えや真理を探ろうとする欲求は、知を愛すること（philosophy）に由来する哲学の起源にも通じます。

「哲学が私たちに何をもたらしてくれるか」について、その答えは哲学カフェ参加者のその後にあると松川さんは言います。ひとつは、問いの立て直し。○○について悩んでいたけど、別の角度から考えてみると問題ではなかった、問いの立て方が間違っていたことに気づくなど。もうひとつは、自分と違う考えの人とのコミュニケーションが怖くなくなることです。

哲学カフェは単に考えることを推奨しているわけではなく、問い直すことから行動を変えたり、問題を保留できることにも期待されているように思います。今後の展開について松川さんは、岡山の地で実践を積み重ねてきたからこそ見える哲学の可能性を可視化して、ほかの地の実践者に伝播していきたいと話します。

NPO法人だっぴ 代表理事
森分 志学 Moriwake Shigaku
1990年、岡山県倉敷市生まれ。大学院生時代に、高校生と大人の対話の場を高校生とともにつくる。卒業後は、教育系の広告代理店に勤務して、高大接続の領域に関わる。2017年に岡山にUターンしてNPO法人だっぴに入職。中高生向けキャリア教育プログラム「中学生・高校生だっぴ」を岡山県内外15市町村30校以上の学校や自治体で展開する。2020年より現職。

今号の表紙画

画・文 タケシマ レイコ

岡山市街地に住む絶滅危惧種 うなぎ

「うなぎ」と聞いて、どんなことが思い浮かびますか？ 大半の人は「美味しい」でしょうか。それでは「絶滅危惧種」と聞くと？ 自分と関わりない遠い国の話と思うでしょうか。「うなぎ」の和名は「ニホンウナギ」。「うなぎ」は岡山県版レッドデータブック2020で「絶滅危惧種ⅠA類」に分類されています。「絶滅危惧種ⅠA類」とは「ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの」。

十数年前、環境学習プラザ「アスエコ」所長の山田哲弘さんは、岡山市街地にある西川で、ゴミ拾いイベントの際ニホンウナギと遭遇したそうです。石垣からぴょこっと出てきた顔の可愛いこと。石垣は隠れ家に適しており、西川には70種類以上の生き物が暮らしているとか。三大河川、そしてそれらと田畑をつなぐ豊かな水路ネットワークが、岡山県を全国有数の淡水魚の宝庫にしているとは驚きでした。

ニホンウナギは数十年前まで県内で沢山見られました。しかし絶滅危惧種となっている。主な原因として気候変動、河川の開発・汚染、違法な漁業・取引などがあげられます。つまり、人間が便利さや都合のよさを優先するあまり、猛烈なスピードで自然を破壊したことで、生物がすみかを奪われているのです。前出のブックによると、県下の絶滅危惧種は1485種（情報不足・留意含む）にのぼります。

ニホンウナギは海、川など水があればどこでも生息できるほど生命力の強い生き物。粘膜で皮膚呼吸できるため、雨天などに陸へ上がり、山間の湖沼まで這って移動することもできます。それほど逞しい生物が存続の危機に瀕している。環境破壊が、深刻なまでに進んでいることの証ではないでしょうか。人間も生態系の一部という自覚を持ち、自然を利用するだけでなく共存するため、みんなで考え行動する社会になったら、どんなに素敵でしょう。

タケシマ レイコ　グラフィックデザイナー／イラストレーター　岡山市生まれ。女子美術大学卒。エディトリアルデザイナー羽良多平吉に師事。氏から「デザインと編集は、作り手の生活と直結している」ことを学ぶ。帰岡後独立。届けたいことを、届けたい相手に、心を込めて伝える贈り物のようなビジュアルコミュニケーションを目指し県内外で活動中。倉敷市立短期大学非常勤講師（2018年4月～）。

編集後記

■2023年度がスタート。当財団の2023年度教育文化活動助成の助成先129件が決定しました。コロナ禍で活動がままならぬ状況にあったせいか、応募数が下降線をたどっていましたが、少し上向きになりました。今号ふえきでは全助成先を「岡山129のアクティビスト」と名付けてご紹介しています。皆さん活き活き溌剌、凛としたお顔、たたずまいから日頃の活発な活動が想像できます。じっくりご覧ください。■2023年度当財団は、助成事業以外も、昨年度テスト的に実施した幾つかの新しい事業を本格化します。また、コロナ禍で実施できなかった成果発表会などもリアル開催に踏み出したいと考えています。当財団公式WEBサイトやfacebookで随時発信、参加を募りますので、ご注目ください。■この機関誌ふえきも今号より増ページ、表紙デザイン・レイアウト等一新しています。掲載情報も、岡山の教育文化活動を推進されている方々、関心ある方々に、より有益なものとなるよう、取材・編集してまいりますのでご期待ください。■3月には設立35周年記念講演を、脳科学者中野信子氏をお招きし開催、700名余りのご参加をいただき大盛況でした。概要は本誌内にて紹介、大好評の講演は財団公式WEBサイト経由でYouTubeからご視聴いただけます。■前号のこの場でご案内がありましたが、当財団事務局長を8年務められた小川隆正氏が3月末で退任（現在は常任理事に就任）されました。お疲れ様でした。事務局長後任となります小職は、福武書店入社時、当財団創設者の福武哲彦氏（当時福武書店社長）の教育・文化に対する熱い思いを、急逝されるまでの2年余りに幾度となく拝聴しました。福武哲彦氏はじめ歴代の理事長、関係者の方々の意思を継ぎまして、岡山の教育文化活動の縁の下の力持ちの一助となるべく、財団活動・運営に携わらせていただき精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。（S）

人づくり、地域づくりを応援します
公益財団法人 福武教育文化振興財団
FUKUTAKE EDUCATION AND CULTURE FOUNDATION

〒700-0806　岡山県岡山市北区広瀬町1番5号 株式会社ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
TEL 086-221-5254　FAX 086-232-3190　URL https://www.fukutake.or.jp/
E-MAIL eczaidan@fukutake.or.jp

福武教育文化振興財団ウェブサイト
コミュニケーション・マガジン and F｜アンドエフ
教育文化活動助成 成果報告書アーカイブ

題名「不易」には、「時代を超えて優れたものに共通する本質的なもの」を大切にしたいという谷口澄夫初代理事長の思いが込められています。

機関誌 不易　vol.81　2023.5.25
編集・発行　公益財団法人 福武教育文化振興財団
制作　株式会社吉備人
デザイン　久延フミカ（ヒラガナ企画）
印刷　研精堂印刷株式会社